



わたくし、大のお酒好きでして、日本酒と付き出しで乾杯。とても綺麗な盃で純米吟醸酒を頂きました。そして名物「蕎麦三昧」！三種の異なる産地の蕎麦の実をそれぞれ別々に打ち分けた、利き酒ならぬ利き蕎麦がでけるセットで、蕎麦の香りが際立つこれぞ逸品というお味で大変美味しかったです。十割蕎麦が計三枚で150円と大変リーズナブル！京都の中心部からは少し離れていますが、行く価値ありのお店です。

東本願寺を後にし、門前町を歩いて西本願寺へ。その途中に「本願寺伝道院」がありました。インドのイスラム様式のドーム、イギリスの建物にイメージしたレンガ壁など、内部は非公開なのですが、外からだけでも一見の価値があります。近く念珠の「せいや」さんで腕輪念珠を、お香の「薫玉堂」さんでは「塗香」という塗るお香を買いました。（白檀のともよい香りがします）

美しいお店や見どころがいっぱいの京都。次回も親鸞聖人ゆかりの地を巡っていきたいと思います！

てホヤホヤ？の内陣は、新しい金箔がまばゆいばかりの光を放ちまやに浄土を感じる御荘厳でした。ちょうど永代経法要が勤められていて、法話を聞かせて頂く事ができました。ありがとうございました。南無阿弥陀仏。



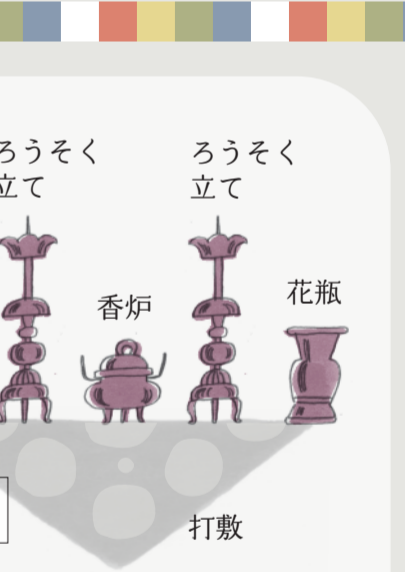
左) この美しい盃はなんと焼物なんでしょうか？ご存じの方は教えて下さい！



東本願寺を後にし、門前町を歩いて西本願寺へ。その途中に「本願寺伝道院」がありました。インドのイスラム様式のドーム、イギリスの建物にイメージしたレンガ壁など、内部は非公開なのですが、外からだけでも一見の価値があります。近く念珠の「せいや」さんで腕輪念珠を、お香の「薫玉堂」さんでは「塗香」という塗るお香を買いました。（白檀のともよい香りがします）

その印象がもしもありません。ちょうど阿弥陀堂で正信偈をお勤めされていましたが、本願寺派の節回しと全然違い、とても新鮮に感じました。

お盆のお飾りは？ お仏壇についても、お盆のための特別なお飾りはなく、他の法事の時と変わりありません。普段は三具足（ろうそく立て、花瓶、香炉各一具）のところを、できれば五具足（ろうそく立て、花瓶、香炉各一具）にし、これらを置く前卓には三角の形をした打敷という布を掛けます。そして、お仏飯や餅、菓子、果物などをお供えます。



初めのお盆... 亡くなられてから初めて迎えるお盆のことを初盆や新盆と言います。初盆の場合も、特別の準備は必要ありません。

**お寺のお茶どころ**  
まだ準備中です

最近YouTubeの「Hachiya Chan」を見て笑って勇気をもらっています。僧侶・釋淳信（森嶋淳哉）

法務の合間に準備をすすめています。なかなか時間がとれずゆっくりゆっくり進んでいます。現時点での決定事項は以下であります。

店名 コーヒーとチャイ ハミンガ  
まいしゅうかようびえいさきょうじかんみでい  
毎週火曜日営業（時間未定）

**お寺の日常発信**

- ホームページ
- LINE 法事や相談の予約などLINEが便利です
- インスタグラム
- フェイスブック
- ツイッター

ここにアクセスすると、HPやSNSを見ることができます

**YouTubeで配信中**

朝の法話おつとめ **おあさじ**

・毎朝9時から（火曜休）  
・法話の後にお勤めしています  
・どなたでもご参加いただけます

**旅の手帖4**  
旅にまつわるあれやこれ

友人がゲストハウスをはじめました。山の上の古民家を改装したすみずみに宿。避暑に行きたいです。事務員ハタノ

**おぼん【お盆】**

正しくは「盂蘭盆会」。「仏説盂蘭盆経」という経典に説かれた物語に基づいて営まれる仏事。

お盆のいわれ  
お釈迦さまの弟子で「目連尊者」というえらいお坊さんがいました。心優しく、いつも亡くなった母親の養育の恩を感謝していた目連。ある日、神通力をもって、天上界で楽しく暮らしているであろう母に会いに行ってみることにしました。

ところが天上界をいくら探しても、母は見当たりません。まさかと思い餓鬼道を訪ねると、あさましい餓鬼の姿になった母を発見します。餓鬼道とは常に飢餓状態で、ようやく食べ物や水を見つけて口には運ぼうとするも目の前で燃えて

尽きてしまふ苦しみの世界。目連は、生前の母が、我が子（目連）を思うあまり、ものを取戻し、施したり恵むということを一切しなかつたために餓鬼道に落ちてしまったのだと知りま

す。深く悲しんだ目連は、なんとか救えないかと泣きながらお釈迦さまにすがりました。お釈迦さまは、7月15日「自恣の日」に、修行僧に供養の目連は、お釈迦さまのいわれた通り多くの僧侶をもてなし、盛大に法会を営みまし

やがて目連の母は餓鬼の世界の苦しみから脱することができました。

恣の日「僧侶たちが一室にこもって修行する夏安居の最終日」に、修行僧に供養の目連は、お釈迦さまのいわれた通り多くの僧侶をもてなし、盛大に法会を営みまし

やがて目連の母は餓鬼の世界の苦しみから脱することができました。

<参考文献>  
門徒もの知り帳 野々村智剣 法蔵館  
浄土真宗 マンガ仏事入門  
作・岡橋徹美 画・広中建次 本願寺出版社

**浄土真宗のお盆**

浄土真宗にご縁のある方々は、お盆を迎えるための「特別な準備」は必要ありません。お念仏のみ教えをいただき、仏さまの国（浄土）に生まれた亡き方々は、阿弥陀仏とともに、大いなる慈悲の心で、迷いの中で苦しむ私たちを、いつも見守ってくださっているのです。そして、さまざまご縁を通して私たちが仏前に誘ってくださっています。ですから、亡くなった方々の罪障を除き、冥福を祈るために行なう「追善供養」は必要ありませんし、精霊棚、施餓鬼棚もいりません。

亡き方の恩に感謝し、仏さまの救いにあい、お浄土に先にいかれた方々と、やがてはお浄土であえるというみ教えを聞いていくのが浄土真宗です。その仏さまを「南無阿弥陀仏」といいます。

お念仏をととなえ、み教えを喜び身になってほしいという、亡き方たちの願いを聞いていただきたいと思います。ぜひとも、お寺で行われる法会で法話を聞いてください。そして、仏さまのお話を通して、わが身を振り返る大切な機会にしていきたいと思います。（浄土真宗本願寺派ホームページより）

**浄土真宗のお盆**

8月12~15日に、本堂にてお盆合同法要を行います。今年もオンライン配信を予定していますので、コロナ禍において帰省やお参りを控えようとお考えの方は、それぞれの安心できる場所でお勤めに参加していただければと思います。お盆合同法要については、別紙の案内をご覧ください。

ご自宅のお仏壇へのお盆参りをご希望の場合は7月末~8月半ばにかけて参りますが、なにぶん

多くのお宅へお伺いしますので、日時のご希望をお聞きすることはできかねます。地域ごとに日程を組んで回りますので、スケジュールが決まりましたらお寺から日時をお知らせいたします。お知らせした日時でご都合がつかない場合は、合同法要へのお参りを検討ください。（自宅へのお参りをご希望の方は6月10日までにご連絡ください）